

自研センター、水性塗装指数を発表へ

2010年度版指数テーブルに約340車種、掲載

水性ベースコートを用いた作業指数が自研センターの手によって作成、日本アウダテックスが10月に発行した2010年版指数テーブルに掲載された。補修用水性塗装指数が発表されたことで、VOCに対する規制がEU地域などに比べて緩やかなことから普及が進まなかつたわが国の車体修理業界における塗料水性化に一石を投じることになろう。

参考値としての指針設定、強制力持たず

2006年4月の改正大気汚染防止法で、2010年度までに2000年度比30%のVOC削減を定められたことから、自研センターでも2003年度より水性塗料による塗装作業の調査研究が進められ、今回の発表となったもの。掲載された内容は外板、樹脂バンパー、内板骨格パネルとなっており、基本的な使用方法は従来の溶剤タイプの補修塗装指数と同様としている。

ただ、今回設定された水性塗装指数に関して、「従来の指針と同様、あくまでも参考値」(自研センター・池田直人社長)としており、指針テーブルを発行する日本アウダテックスからも、水性塗料は温度や湿度といった作業環境や使用塗料の相違によって作業性の差が大きいため、実情に応じて指針を適宜増減して使用するように付記している。

また、今回の水性塗料の使用はカラーベースおよびパールベースの塗装工程のみとし、プラサフやクリヤーに関しては従来の溶剤タイプを使用することが前提。プラサフやクリヤーに低溶剤タイプの塗料を使用した場合は、状況に応じて適宜指針の増減が必要となる。

従来の溶剤タイプ補修塗装指針との相違点は、水性タイプではソリッド

カラーは2コートソリッドでの仕上げとしており、2コートソリッド割増の加算が必須となる。これに伴い、樹脂バンパー塗装指針にも2コードソリッド割増が新たに設定されている。加えて、ソリッドカラーでもベース加算の計上が可能となっている(3コートパールと耐スリ傷性クリヤーは溶剤タイプと同様に加算不可)。

溶剤タイプよりも単純比で10~12%のアップ

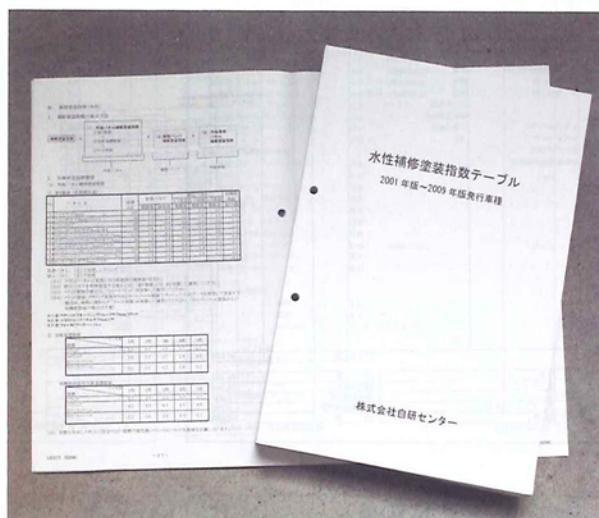
溶剤タイプの指針値と比較した場合、その差は塗り指針では10~12%程度増、加算基礎数値では塗色と枚数別に0.2~0.9が加算されている。

その他、下色塗装割増や2トーンカラーカットも指針が別途設定されている。

溶剤タイプとの指針値差の内訳は、エアプロアによるカラーベース塗料の強制乾燥作業時間分となっている。加算基礎数値では、強制乾燥時間に加えエアプロアなど強制乾燥に使用する器具の準備・後始末時間も含まれている。

水性塗料の場合、溶剤タイプよりも脱脂作業時間が長くなるといわれるが、自研センターでの調査研究では溶剤タイプとの差はないと判断。ガン洗浄時間に關しても、溶剤タイプよりも時間がかかるとしているが、指針値として差が発生するほどではないとしている。

補修塗装指針の材料費は、溶剤タイプでは日本アウダテックスから材料費



算出の目安として材料費率が公表されているが、水性塗装指針では、具体的な材料費率の公表は控えられており、基本的に個別に実額での請求となる。また、従来通りの材料費率で算出する場合は、以下の計算式にて材料費率を算出するように指導している。

$$\text{材料代実額} \div \text{塗装工賃} \times 100 (\%)$$

水性塗料では、廃棄塗料の分離処理など、溶剤タイプではなかった作業が増加するが、水性補修塗装指針には、廃液分離処理作業は含まれていない。また、水性塗料の特徴として隠ぺい性の良さが挙げられるが、水性標準塗装指針ではカラーベースの塗り回数は溶剤タイプと同じ(ソリッド3回その他の塗色は4~5回)としている。

今回の水性補修塗装指針に伴い、指針テーブルの2000年10月号から2009年8月号まで掲載された約340車種について、水性補修塗装指針を設定している。また、溶剤タイプでは隠ぺい性の塗色一覧が設定されているが、水性塗料はデータが揃っていないとのことで非公表となっている。